

中 新版理科の世界 2 (理科 828) 拡大版 【18P】 (全4分冊)

新版

拡大版【18P】 (全4分冊-①)

理科の世界 2^①

SCIENCE
WORLD



大日本図書

A5 判 18P 理科2

4章

日本の気象

ここでは、日本の気象と天気にはどのような
特徴 があるのか、くわしく調べていこう。



267-6 ページ  の解答：

- ① 前線面 ② 暖前線 ③ 寒前線

268-1

台風が九州に上陸したときの天気図と
気象衛星雲画像を重ね合わせたもの。



思い出そう

台風は日本のはるか南の海上で発生し、しだいに北のほうへ動くことが多い。天気は、台風の動きによって変化する。台風が近づくと、多くの雨が降り、風がとても強くなる。 (小学校5年)

268-2

225

1 日本の気象の特徴



日本の気象と日本周辺の気団とはどのような関係があるのだろうか。

268-3

226

A5判 18P 理科2

日本は広い大陸と海洋にはさまれた
中緯度地帯^{ちゅういど}★¹に位置している。大陸と海洋
上には、季節ごとに気温や湿度^{しつど}の異なる大
きな気団[←]が発達する (図33)。高気圧が
つくる気団はそれぞれの季節に特有な風
(季節風)^{きせつふう}や天気をもたらし、日本の気象
に大きな影響^{えいきょう}をあたえている。また毎
年のように襲^{しゅう}来^{らい}する台風の勢力には、海
流の水温がかかわっている。これらの日本
の気象について理解を深め、安全で豊かな
生活に活かしていこう。

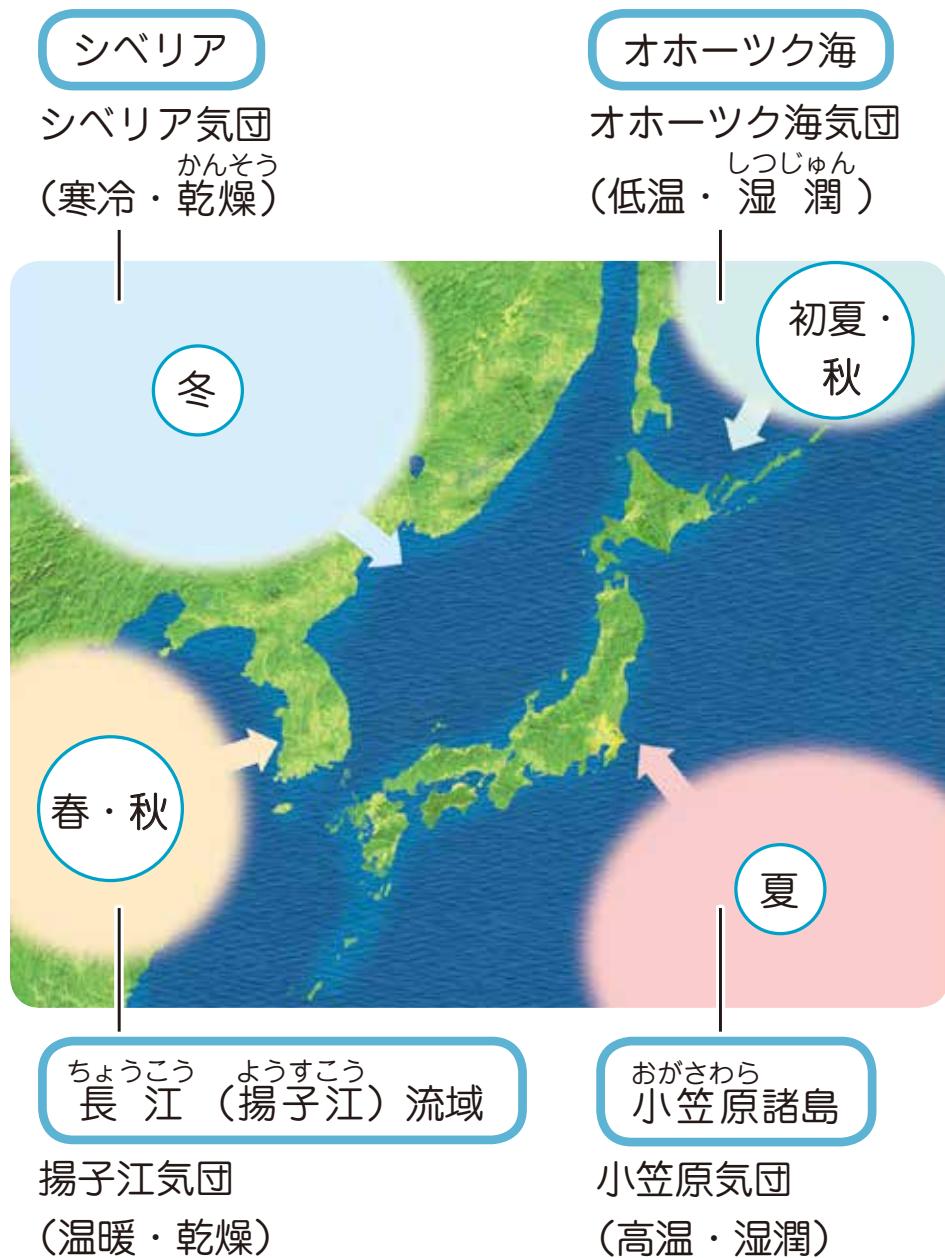
261-5 ページ ◀ 気団 ◁

★1：北緯、南緯それぞれ30~60°付近。この地域
では南と北の気温差が大きい。

268-4

227

図33 日本周辺の気団



269-1

228

気団は高気圧が
つくっているから、
気団から風が
ふき出すんだね。



269-2

229

A5判 18P 理科2

表3 日本周辺の気団の特徴

気団名	高気圧
シベリア気団	シベリア高気圧 (大陸高気圧)
小笠原気団	小笠原高気圧 (太平洋高気圧)
オホーツク海気団	オホーツク海高気圧
揚子江気団	熱帯の大陸高気圧

269-3

230

	発生地	性質★ ¹	発達する季節
	シベリア	寒冷・乾燥	冬
	北太平洋西部	高温・湿潤	夏
	オホーツク海	低温・湿潤	初夏・秋
	長江（揚子江）流域	温暖・乾燥	春・秋

★1：ここでは、気団の性質で「寒冷」というときは0 °Cより低く、「低温」というときは、温度は低いが0 °Cより高いことを指す。

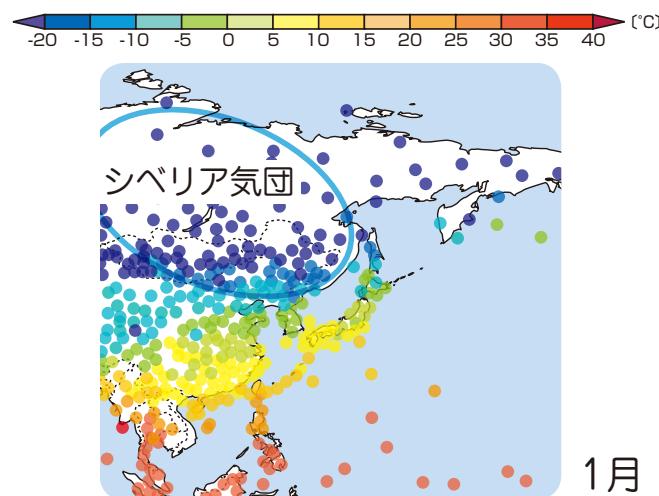
269-4

231

図34 シベリア・小笠原両気団のおもな発現時期
の月平均地上気温分布 (平年値)^{★2}

シベリア気団

シベリアの冷たく乾燥した大陸の上に発達する。寒い季節にモンゴル北部からシベリア付近に広く発達する寒冷な気団で、大陸の放射 れいきやく 冷却と北極海方面からの寒気団の南下によってできる。高さは3 km以下程度であるものの、発達したときは水平方向に数千kmの大きさとなる。

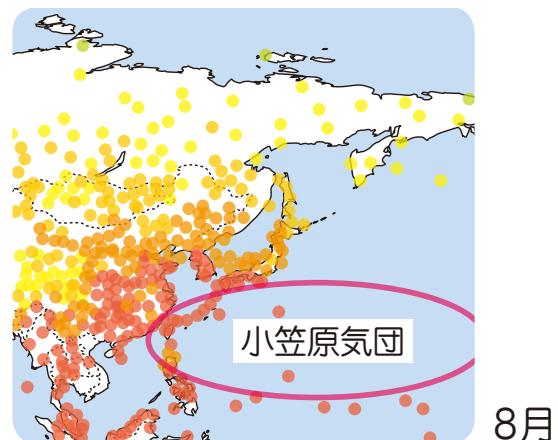


269-5

232

小笠原気団

北太平洋の亜熱帯地域には、おもに熱帯～亜熱帯のあたたかい海洋上でつくられた気団が、つねに帯状に広がっている。この気団の西の部分を小笠原気団とよぶ。気団の上層部は乾燥しているが下層は湿潤である。



★2：平年値とは、連続する30年間の平均値（10年ごとに更新）をいう。

269-6

233